

その他の一般質問

松下 哲也議員

道々クチヨロ原野塘路 線改良舗装について

問 過去にも数回質問が
されてきた件ではあ
るが、地域住民からの要望、

問い合わせが寄せられてい
る。

道々は国立公園内であり
自然保護団体との調整等、
非常にハードルの高い件で
はあるが地域住民には重要
な生活道路でもある。その

地域に住民がい
る限り生活環境
の整備は進めて
行かなければな
らないと考える。
かなりの期間
が経ったがその
後の経過と今後
の取り組みにつ
いて伺う。

答

平成十年
より湿原
部の改良舗装が
中断されている。
その後、関係地
域、関係行政機

関、団体との調整を図って
きたが改良舗装再開には
至っていない。

道においては、公共事業
への厳しい評価、財政状況
費用対効果、維持管理を含
め、総合的な判断から現時
点では、現況の砂利道によ
る管理でやむなしと判断し
ていると聞いているが、毎
年定例で開催される「釧路
建設管理部」との連絡会
議を中心に協議を継続し、
自然保護団体との接点も
切らさず今後も対応して
いく。

深見 迪議員

汚染がれき受け入れ は容認できない

問

五月に環境省から道
を通じて、東日本大
震災の被災地のがれき処理
は可能かと問い合わせがあ
り、町は受け入れ可能と回
答したと聞いているが、そ
の内容と経緯について伺う。



東日本大震災のがれき

八月三十日、「放射性物
質汚染対処特措法」（略称）
が交付された。この特措法
と町が回答したがれき焼却
受け入れとの関係について
伺いたい。

答

被災地の災害廃棄物
の受入については、
国は四月八日、北海道を通
じ、受入処理等が可能な市
町村の調査を行った。

町は、放射能に汚染され
たがれきを受け入れるべき
ではないと考えるが、町長
の所見を伺う。
本町が受入可能とした災
害廃棄物は、放射性物質に
汚染されていない焼却処理
できる災害廃棄物である。
本町としては、放射能に

道々クチヨロ原野塘路線



汚染された廃棄物の処理に
関しても、安全性が確認さ
れることが前提であり、本
町の環境への影響や基幹産
業である酪農の生産物であ
る生乳を、安全な食糧とし
て供給していくことなどを
総合的に勘案し、住民の意
見を聞きながら判断してい
きたいと考えている。

深見 迪議員

**核の廃絶めざし、
非核平和の町宣言を**

問 標茶町議会は、平成
二十一年度第二回定

例会において、「核兵器の
廃絶と恒久平和を求める意
見書」を採択したところ
ある。

今年の八月、非核宣言自
治体は、全国の自治体の
八五・八%を超え過去最高
になった。田上富久長崎市
長が会長となっている「日
本非核宣言自治体協議会」
は、被爆都市の市長として、

核兵器廃絶の悲願をこめて
熱心に「宣言」を呼びかけ
ている。

福島原発事故で、あらた
めて核と人類は共存できな
いことが大多数の国民の共
通した認識となった今、こ
の呼びかけに応え、標茶町
も「非核平和の町宣言」を
すべきではないか。

答

重要な事案でもあり、
これまで、釧路管内

の宣言に至る状況、提案状
況、宣言文の内容について
検討を重ねてきたところで
あり、「世界平和と安全は
人類共通の願いであり、世
界唯一の被爆体験国である
日本国民として、この地球
上からあらゆる核兵器の廃
絶と戦争の根絶を願うも
の」との基本的な考えと、
「今日的情勢を鑑み、宣言に
ついては議会の皆様と協議
したい」との基本的な考え
のもと、議会とも今後、検
討すべく相談していきたい。

深見 迪議員

**塘路湖、シラルトロ
湖の水質汚染はす
んでいるか**

問 今年、塘路湖の藍藻
類が大発生して、釧

路市、釧路町の水道水がカ
ビ臭いと報道されたが、塘
路湖の藻類の大発生の原因
は判明したのか伺う。



シラルトロ湖

またこのことを含めて湖
の水質の汚染は進んでいる
ように思うが、その状況は
どのようになっているか。
また、町として環境保全の
ための手立てを行うべきと
考えるがどうか。

答

釧路市上下水道部か
らは、水道水のかび
臭の原因物質は２メチルイ

ソボルネ
オールと
ジオスミ
ンが指定さ
れており、
塘路湖出口
の水質調査
で２メチル
イソボルネ
オールの濃
度は高いが、
発生原因と
藍藻類との
因果関係に
ついては特
定できない
との連絡を

受けている。また、塘路漁
業協同組合からは、アオコ
が大量発生している状況で
はないとの連絡であった。

今回の件については、釧
路川環境保全連絡協議会及
び釧路市上下水道部が定期
的に実施している水質調査
の結果を引き続き注視して
いきたい。

水質については近年の数
値を見ると大きな変化は認
められていない。今後とも
関係機関や団体と連携し環
境保全に努めていきたい。

後藤 勲議員

エゾ鹿の有効活用を

問

鳥獣被害対策実施隊
の設置により、昨年

は、１９０頭、今年は２５０
頭を目標に捕獲され、九月
初めには約２００頭の実績
がある。また猟友会でも
１、１００頭も駆除し、そ
の残滓のほとんどが焼却さ
れているが、燃料の高騰、



(写真提供 中本 民三氏)

焼却炉への悪影響をも考え
ると何らかの対策が必要と
考える。この資源を有効に
活用し、例えばペットフード
を造るなり又、有害駆除の
経費の一部に充当するなり、
方法を検討すべきではない
か。

答

鹿は、基本的には一
般廃棄物として、市

町村が行うことになってい
るが、焼却炉の寿命を考え
た場合、負担軽減のため特
定の場所への埋設も選択肢
の一つであると考えている。

酪農学園大学と町、JA、
標茶高校との地域総合交流
に関する協定の中でも鹿肉

資源の有効活用は検討課題
の一つになっている。鹿肉
は、高タンパク低脂質で豊
富な鉄分を含むヘルシーな
天然資源として注目されて
いるが、エゾ鹿ネットワー
クや酪農学園大学との協定
の取り組みの中で、本町と
して調査、研究をしていき
たい。駆除できるのは、ハ
ンターだけなので一頭でも
多く獲れるよう協力してい
きたい。

請願1号

ゆきとどいた教育をす
すめるため少人数学級
実施を求める請願

請願者 加藤 幸俊ほか

1, 054人

・請願の趣旨は妥当とし
て採択

請願の内容は、「ゆきと
どいた教育をすすめるため
町独自の予算措置で標茶小
学校現二学年の学級定数を

三十五人にし、二学級編成
の少人数学級にしてください
い」というものでしたが、
厚生文教委員会で審査した
結果、請願の趣旨は妥当と
して採択すべきものと決定
し、その後本会議で賛成多
数で採択されました。

陳情第1号

標茶町も太陽光発電装
置設置者に近隣市町村
並の補助制度確立要請
に関する陳情

陳情者

クリーンエネルギー太陽
光発電を推進する会

代表 橋本 義夫

・総務経済委員会で継続
審査

原子力発電の危険性を訴
え、再生可能なクリーンエ
ネルギーとして太陽光発電
への町の補助金を要請した
ものでしたが、総務経済委
員会で審査の結果、継続審
査となりました。

陳情第2号

平成二十四年度農業予
算編成ならびに税制改
正に関する陳情

陳情者

標茶町農協代表理事組合長
高取 剛

・陳情の趣旨は妥当とし
て採択

東日本大震災、原発事故
からの農林漁業の再建、安
全・安心のエネルギー政策、
日本経済の社会の再建や、
災害に強い食糧基地の建設、
TPP交渉への参加を行わ
ず食糧自給率向上、営農支
援、軽油取引税、A重油の
石油石炭税の課税免税措置
の恒久化等を要請した陳情
でしたが、総務経済委員会
で審査した結果、陳情の趣
旨は妥当として採択すべき
ものと決定し、その後本会
議で賛成多数で採択されま
した。